

よもやま話

柳下洋一

2月の「節分」には毎年恒例の豆まきがあります。

「節分」は現在では立春の前の日になっていますが、古くは年4回ありました。つまり節分というのは「節の変わり目」という意味だと思います。それが立春の前日だけ残ったのはこれも古く室町時代あたりからだと言われています。この時期の節分だけ残ったのは旧正月の行事の一つだったからだという説もあります。

現在の様に豆を投げる行事になったのは中国の明の時代に行われ日本に伝わってきたと言われています。本来の形は一家の主人が「鬼は外、福は内」ととなえて豆をまき、その後家族のものが自分の新しい年の数の豆を食べるというものです。寒中に不足しがちのビタミン補給の意味もあつての「豆」なのかもしれません。宗教的には魔除けの意味やわざわいを除いて新しい年を迎えようというのが近世以来の節分の意味になりました。

話しは変わりますが、以前から幼児教育は、知育・徳育・体育と言われ、最近ではそこに食育が入り子どもが育つことに対する関心が高まっています。食育がきっかけを作ったのか？最近、〇〇育という言葉がたくさん聞くようになりました。なんと世の中には50もの〇〇育があるそうです。いくつか挙げてみますと「服育」「花育」「木育」「口育」「雪育」「海育」「水育」「浴育」・・・「育」という字は、★育む★育つなどの使い方をしますが、それぞれの意味を改めて広辞苑で調べてみました。

★育む～親鳥が雛を自分の羽で抱きかかえて守り育てる。養い育てる。大切に守り、大きくする。

★育つ～生物が成熟期に向かって進む。大きくなる。成長する。大きな規模にまで発展する。技術、技能を身に着けて一人前になっていく。「育」ととても素晴らしい意味を持つ文字ですね。

中身をよく見てご家庭の子育てに当てはまる〇〇育を子どもの育ちに役立ててもらえたらと思っています。